

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第26号	氏名	本多 啓子
学位審査委員	主査	大井 久美子	
	副査	林 善彦	
	副査	原 宣興	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は、6歳から60歳の重症心身障害者施設入所者を対象に、施設における第一次予防の観点から定期的口腔保健管理を中心とした8年間の介入の効果を追跡調査し評価することであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>長崎県内の某重症心身障害者施設に1993年度に在所していた122名を対象とし、歯科医師が毎月1回口腔診査ならびに予防処置を行うとともに、2名の常勤の歯科衛生士が歯科医師の指示のもとに、歯石除去、歯周ポケット洗浄、個別刷掃指導を含む専門的口腔ケアを実施しており、8年後にその効果を評価した。研究手法は妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>現在歯数、D歯数、F歯数および8年間の変化については、対象者毎の現在歯数、D歯数、F歯数から変化量を算出し、1993年度の年齢群別に集計した。コントロールとして厚生省歯科疾患実態調査（以下、実調）の素データを1993年度の対象者の各年齢における人数分布に対応させて調整し、各指標の平均値を算出した。対象者の8年間の各指標の変化量を実調値の変化量と比較した。歯肉の状態、歯垢付着、歯石沈着の変化については、1993年度入所者の年齢群別歯肉の状態、歯垢付着、歯石沈着の個人コード値の分布と同対象者の8年後の2001年度の分布を比較した。これらの結果は、歯科専門家の定期的管理により、自己管理が困難な障害者の口腔内病変の早期発見・早期治療に寄与しうる点で大きな意義を有する論文である。</p> <p>以上のように本論文は、自己管理が困難な障害者の口腔内病変の早期発見・早期治療に対する貢献は大であり、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			